
[成果情報名] 年2回接ぎ木と補光によるカキ「秋王」穂木の早期大量増殖

[要約] カキ「秋王」は、最低温度18℃設定の加温および赤色LED補光を用いた18時間日長の栽培条件下で、2月の休眠枝接ぎとその後が発生した新梢を用いて7月に緑枝接ぎすることで、年間に慣行法の6倍量の苗木生産用穂木を増殖できる。

[キーワード] カキ、秋王、補光、緑枝接ぎ、穂木

[担当部署] 果樹部・果樹育種チーム、果樹栽培チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作目] 果樹

[専門項目] 栽培

[成果分類] 行政対応

[背景・ねらい]

本県育成甘ガキ新品種「秋王」は、種なし、大果、良食味といった優れた特性を持つため、県産カキのブランド化と産地振興に向け苗木導入が進められている。しかし、カキは年間の新梢伸長量が少なく、苗木生産のための穂木を短期間に確保できないことが、早期普及拡大の阻害要因となっている。そこで、カキ「秋王」の穂木を、短期間に大量増殖できる技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. カキ「秋王」は、最低温度18℃設定の加温ハウスおよび赤色LED補光による18時間日長条件下で栽培することで新梢伸長が促進される（データ略）。
2. 加温栽培条件下で2月に休眠枝接ぎを行うと、その後が発生した新梢上の芽は発芽後4～5ヶ月で充実し、7月には緑枝接ぎ用の接ぎ穂として利用できる（データ略）。
3. 加温および赤色LED補光の栽培条件下で、2月の休眠枝接ぎとその後が発生した新梢を用いた7月の緑枝接ぎとの年2回接ぎ木により新梢数の確保と新梢伸長を促すことで、露地の年1回接ぎ木の約6倍量の接ぎ芽が1年間で得られる（図1、表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. カキ「秋王」苗木の早期大量生産に活用できる。
2. 「秋王」以外のカキ品種についても、穂木の短期間大量増殖技術として活用できる。

[具体的データ]

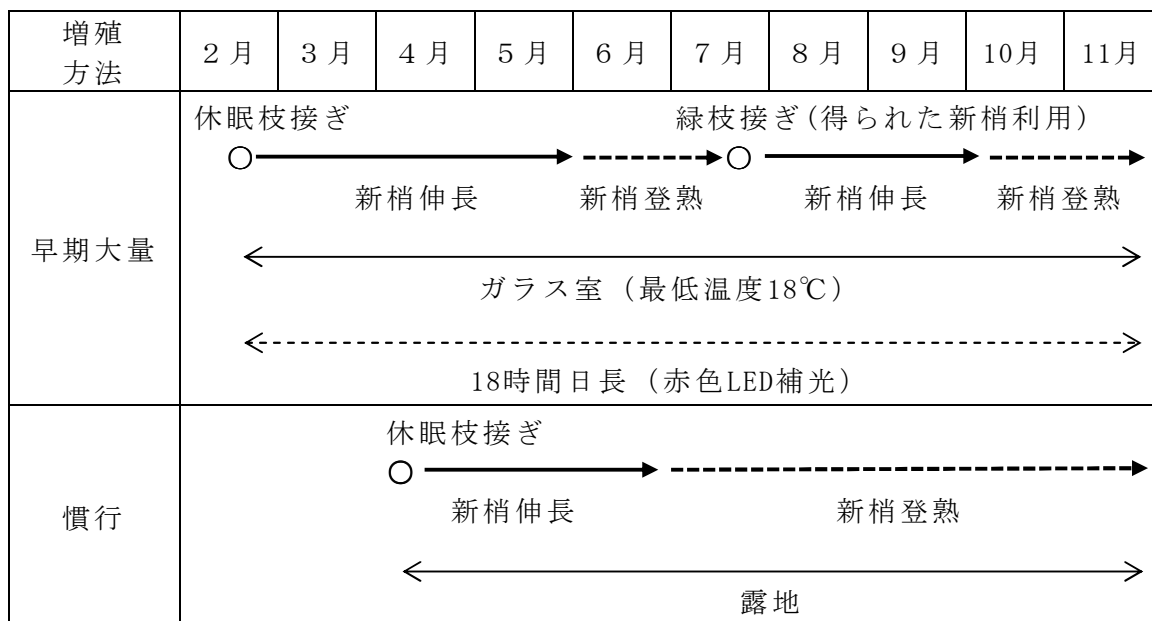


図1 カキ穂木生産における早期大量増殖法と慣行法の工程表

表1 加温、補光、年間2回接ぎ木が「秋王」の接ぎ芽生産に及ぼす影響 (平成25年)

栽培条件	年間接ぎ木回数	接ぎ木時期(月/日)	接ぎ木方法	接ぎ木活着率(%)	平均新梢長(cm)	接ぎ穂1芽当たり	
						獲得芽数(芽)	総獲得芽数(芽/年)
加温+LED補光	2回	2/22	休眠枝接ぎ	89.7	68.9	12.0	55.2
		7/20	緑枝接ぎ	81.0	25.0	4.6	(12.0×4.6)
露地(慣行)	1回	4/4	休眠枝接ぎ	72.2	43.7	9.0	9.0

注) 1. ポット植え「太秋」に接ぎ木。

2. 緑枝接ぎは、休眠枝接ぎから発生した新梢を接ぎ穂とした。

3. 加温は、ガラス室内で最低温度18℃設定とした。

4. 補光は、赤色LED光(ピーク波長639nm)を用いて、樹体上部の光強度100μmol/m²/s、18時間日長になるよう照射。

5. 獲得芽数は、新梢上の接ぎ木に利用可能な芽(縦横3mm以上)の数とした。

[その他]

研究課題名: カキ「秋王」の早期大量増殖、早期成園化および品種識別技術の開発

予算区分: 県特(かき新品種普及拡大)

研究期間: 平成25年度(平成23~25年)

研究担当者: 朝隈英昭、千々和浩幸、石坂晃、栗原実、奥村麗、白石美樹夫、松本和紀